



### プロジェクト外出支援

## 5か月で232件の利用

### お助けセンター絆号

桔梗が丘に住む70歳以上の高齢の方で自家用車の運転が出来ないとか、公共交通機関の利用が困難などで困っているのを助けようと、桔梗が丘自治連合協議会が「お助けセンター絆・外出支援サービス」をプロジェクト事業として、

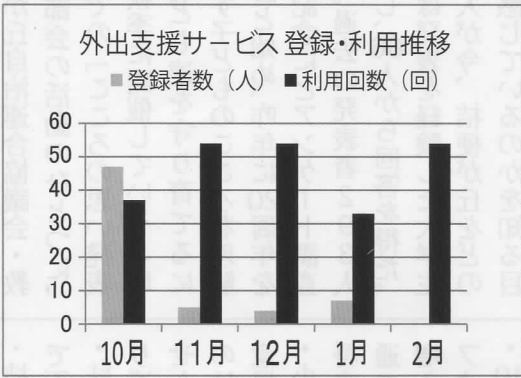
昨年10月に本格運行を開始から5か月を数えた。2月17日までの集計では、利用者登録をしているが63人、232件の利用があった。

本格運用の前に2か月の試験運用でシステムを構築して、運用のマニュアルを作成

# きぎきょう通信

2017年3月(平成29年)

発行 桔梗が丘自治連合協議会  
連絡先 桔梗が丘市民センター内  
TEL 65-1206  
FAX 65-1206  
Eメール kikyoku-ko@emachi-nabari.jp  
5,716世帯・13,914人  
(2017年2月1日現在)



した。特にサービス面では、予約情報の確実な共有、予約時間の厳守、釣銭の常備など、気持ち良く利用してもらおう」を重点にして運行している。運行する車両の愛称を公募して「ほっとまち絆(きぎょう)号」を選んだ。

利用している人からは「料金が安価なので助かる、自宅の玄関から行先の入り口に着くので楽ちん、運転が桔梗が丘の人なので、到着まで気楽に世間話が出来ると、帰宅する時の時間予約もスムーズ」と好評で、一度の利用でほとんどが再予約するそうだ。

目的地は病院が90%と他を圧倒している。あとはスーパー、各種施設、個人宅と続く。月曜日から金曜日の運行だが月・水・金が多く、時間帯は午前9時から12時に集中している。

運用を管理している事務局は、車両を運転する支援者不足で苦慮している。現在9人で回転しているが、今以上の予約になると対応がむずかしいので参加してくれる人を募っている。詳細を説明するので☎0595-66-3100に問い合わせをと言っている。

「お助けセンターは」一昨年前に「家事支援サービス」を開始、昨年に「外出支援サービス」を開始して活動中。今年4月から開始する「配食サービス」の準備が進んでいる。

### 県交通安全県民大会

#### 19年間登校の安全を

四番町 杉中清哉さん

三重県主催、同県交通安全協会ら後援の「平成28年度三重県交通安全県民大会」が、昨年末に県総合文化センターで開催された。式次第「県交通安全全功労者表彰・個人の部」で、桔梗が丘・杉中清哉さん(四番町)が県内の5人とともに知事表彰を受けた。

同大会は、交通事故の根絶を目指し、交通安全に対する理解を深めてもらい、安全で暮らしやすい三重県を実現することを目的に毎年開催されていてこの年のスローガンは「交通事故ゼロ、飲酒運転0(ゼロ)をめざして」

杉山さんの顕彰次の通り。平成9年から19年の長期にわたり、地元小中学校の通学路における街頭啓発指導に携わる傍ら、近年は小中学校に

において安全な道路横断や自転車の正しい乗り方の講習を施すこと等により、特に学童に対する交通安全意識の普及・高揚に大きく貢献されています。

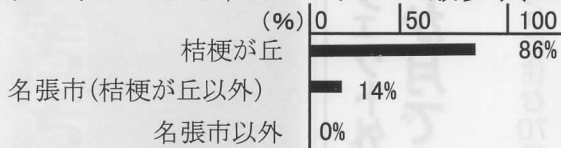
・名張市生活安全会推進協議会の交通安全運動に伴う出勤式や啓発物品の配布等に積極的に参加し、また、交通安全部員のスキルアップを図るための「シルバリーリーダー育成研修」や「交通安全研修会」について携わり、市の交通安全啓発活動におけるメンバーの意識高揚に努められています。



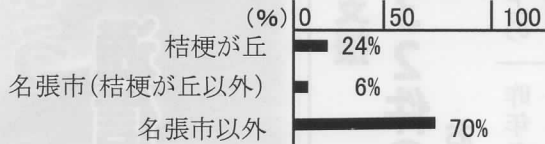
「訂正」本紙77号「民生・児童委員改選」の記事で、同制度100周年を来年に迎えるを、今年に迎えるに訂正します。

## 桔梗が丘に関するアンケート

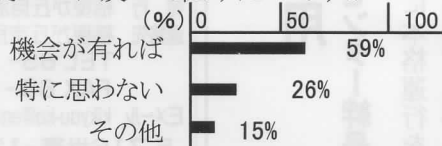
問 1 今はどこにお住まいですか:18歳以下(22人)



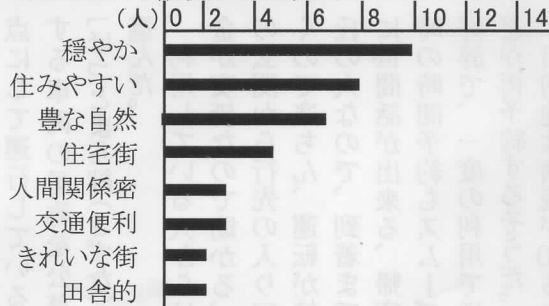
問 2 今はどこにお住まいですか:19歳以下(33人)



問 3 桔梗が丘以外に住んでいる方  
将来桔梗が丘に戻って住みたいですか



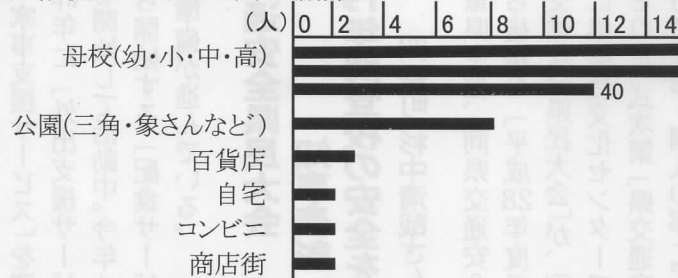
問 4 桔梗が丘以外に住んでいる方  
今住んでいるところから桔梗が丘を見て



以下1票の回答

働く場所少ない、子育てに適している、高齢化、空き家が多い、教育意識が高い、人口が少ない、若者が少ない、名張市の中心、街灯が少ない、道が暗い、田舎と都会が混じっている、都会的

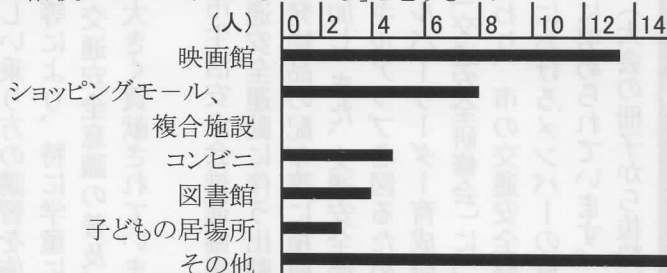
問 4 桔梗が丘で思い出の場所



以下1票の回答

桔梗夏まつり、市民センター、鹿島宮、シャックリ川、あかね橋、おばさんの小道、桔梗が駅、本屋、通学路、塾、映画館

問 5 桔梗が丘で「あったらいいな」と思うものは



僕らと私たちの桔梗が丘  
地区の小中校を無くさないで

## こころの思い20周年 アンケート

桔梗が丘自治連合協議会・教育文化部会の活動のひとつに、青少年での「こころの思い発表会」を秋季に開催している。「地域の子ども達を守り育てるには、まず子どもを育てるにしよう」と始め、昨年に20周年を迎えた記念にとアンケート調査をした。過去の発表者293人に送付し、66人から回答を得た。本紙は発表を経験した大学生や社会人が今、桔梗が丘をどのように感じているのかを知る目的で同部会の許可を得て掲載します。

- ・桔梗が丘小学校をなくさないで下さい。
- ・妹が小学生で合併するとかかなり遠くから通わなくてはなりません。想い出の場所がなくなるのは、とても悲しいです。市民の意見に耳を傾けてください。
- ・小中校が合併となった場合、将来的には有益と思いますが、通っている子ども達には負担が増えると思います。地域全体のフォローが必要かと思えます。
- ・40年以上の思い出や、これからからつくる1年生、平井堅さんの思い出の詰まった南小学校

をつぶさないで。

- ・今も発表会が続いているのを知り懐かしかった。発表会としてのねらいや、して欲しい話題、理想の学生像もあるかもしれないが、できる限り多様な子どもが自由に想いを話せる場として続けて欲しい。
- ・人権教育に傾倒し過ぎ、逆に過敏になった子ども達の発想や、価値観の幅を狭めることになりえる場合があると思えます。

ば帰りたい。

- ・アンケートがあったので「発表会」に参加したことを思い出すができた。懐かしいと思いつながら記入。
- ・約10年前のことで驚きました。嬉しかった。桔梗が丘はとても好きです。いつか桔梗が丘に戻ってきたい。
- ・桔梗が丘8番町の街路樹が弱ってみすばらしい。熱中症対策にも、もっと葉を茂らせて欲しい。

(回答を抜粋、補筆等で編集しています)